

17年目を迎えた早池峰山頂トイレ担ぎ下ろしとボランティア活動

永田京子（和賀川水系の自然を考える会 代表）
（花巻山友会（岩手県勤労者山岳連盟）自然保護部）

《早池峰山のこれまで》

1. [早池峰山の自然環境の現状]

早池峰山（1917m）は、岩手県の東側、北上高地の最高峰としてほぼ中央に位置し、地形の生い立ちがわが国でも最も古い山の一つで、北アルプスの白馬連山、北海道のアポイ岳に並び、わが国の代表的な蛇紋岩山地として昭和32年（1956年）に早池峰山高山植物群落が国の特別天然記念物に指定された。蛇紋岩の山は超塩基性で貧栄養の地。固有種や稀少種が多く見られる。高山植物はかつて氷河時代が終わりを告げ温暖化した時期に、冷涼な気候を求め生き延びたところが高山だったという。

昭和50年（1974年）に国の自然環境保全地域、昭和57年（1981年）に国定公園に指定され、平成2年（1990年）には鞍部の小田越（おだごえ）をはさんで向かい合う薬師岳（1644.9m）も早池峰国定公園に編入された。早池峰山は蛇紋岩の山、薬師岳は花崗岩の山で植相が全く異なり、薬師岳の高山植物群落も特別天然記念物に指定された。早池峰山はハヤチネウスユキソウ、薬師岳はオサバグサが特に有名である。

その後も平成5年（1993年）に林野庁の森林生態系保護地域、平成10年（1998年）には岩手県の鳥獣保護区の特別保護地区となった。面積1,370ha。早池峰国定公園は、公的に最大級の保護の網がかけられている。

ただ、早池峰山と薬師岳をつなぐ鞍部である小田越（おだごえ）（道路をはさんで登山口が向かい合い、早池峰下山後薬師岳に登ることもできる）の部分は、県道紫波川井線が通っているため第2種特別地域という弱いレベルの指定に止まっている。

薬師岳が国定公園に編入される前年の夏、小田越から先は幅のせまい砂利道だったが、県が駆け込みで拡幅舗装し、以来県道紫波川井線が通行しやすくなり、結果として早池峰山のオーバーユースを招くことになった。登山シーズン中の車両通行の混乱、盗掘、登山者の増大で踏みつけによる高山植物の減少など大きな問題を引き起こした。

オーバーユースの問題は、数年がかりで保護団体が要望していた登山口へのシャトルバス運行が、平成10年（1998年）に始まり、以後はかなり改善された。県道自体も11月下旬から翌年5月下旬までゲートが閉鎖されるようになり、針葉樹を掘り出すなどの大がかりな盗掘は聞かれなくなった。10年間は、オーバーユースに悩まされた。

一方、早池峰山東側の山麓で進められている大規模林道住田一川井線はあと2年ほどで完成の見込みというところまできているが、これまで利用しにくかった早池峰山頂から剣ガ峰経由で川井村へ至るコースが数年前から歩けるようになった。県はこのコースに積極的ではないが、登山形態の変化や保護管理上の影響が注目される。

また、近年雪の少なくなったことが起因して、早池峰周辺にホンシュウジカの浸出が目立ち始め（岩手日報 2008. 6. 11）、剣ガ峰分岐や小田越登山口付近でも目撃された。最悪の場合には、南側高山植物帯に入り込み、ハヤチネウスユキソウなど早池峰山の高山植物を食害することも懸念されている。

シカによって日光白根山ではシラネアオイが消滅し、丹沢では草の根まで食べつくす食害の例にすさまじいものがあり、早池峰山も目撃情報の収集など、注意深く見守っていかなければならないところである。

2. [早池峰山登山者の動向]

シーズン中、県外からの登山者は約 65%、県内からは 35% くらいで、年齢構成は 50～60 代が約 60%。男女の割合はほぼ半々となっている。登山者数は、昭和 62 年（1986 年）に 5 万 9 千人ということもあったが、平成元年が 4 万 3 千人、百名山ブームが去り 5 年が 2 万 3 千人、平成 9 年には一時増加して 3 万 5 千人、以後 2 万人台を上下している。

3. [早池峰山頂避難小屋のトイレ]

早池峰山山頂避難小屋のトイレ（山頂トイレ）は、昭和 61 年（1985 年）に現在の避難小屋が作られた時、曲がり屋風に外に設置されたもので、当時の山のトイレとしてはもっとも普通な「浸透式」である。便槽のコンクリートの底には 10×40 センチほどの穴があり、水分が抜け出るようになっていた。さらに、固形分はシーズンの終わりに近くの岩陰へ捨てられていた。

4. [担ぎ下ろしのはじまり]

花巻山友会会員の中の数名の人たちがやっている「早池峰にゴミは似合わない実行委員会」（早ゴミ）、その事務局長である内匠（たくみ）利光さんが、ふとした機会に監視員の方から初めて山頂トイレの実態を聞き、仲間にこの話をしたのが発端である。

話を聞いた「早ゴミ」の代表である菅沼賢治さんたちは、これまでまったく知らなかった話に驚くと同時に、「垂れ流しは早池峰の高山植物にとって富栄養化につながり、まずいのではないか」、「川原の坊コースの頭垢離（こうべごおり）は、最後の水場として皆に利用されているが、水質は大丈夫なのか」と次々に疑問が湧いてくるのだった。この頃小田越コース頂上直下のお花畑には、ティッシュの花が咲き乱れていた。

菅沼さんたちは、「登山は一部の人の趣味の世界。何でもすぐ行政に頼って県民の税金を使わせるようなことはしたくない」「まず我々登山者の手で、できることをしようじゃないか」と、昭和 69 年（1993 年）10 月、13 人で初めて担ぎ下ろしをおこなった。担ぎ下ろしの資材として、一斗缶や肥料袋をもらい集めた。

菅沼さんたちは、初めて便層のふたを開けた瞬間、中にし尿まみれのペットボトル、弁当のカラ、空き缶、生理用品などが散乱しているのを見て、覚悟していた臭いではなく、怒りの方がこみ上げてきた。登山者の責任のなさ、マナーの悪さがよくよくわかった一瞬だったのである。

この「早池峰にゴミは似合わない実行委員会」は、もともと岩手県勤労者山岳連盟が毎年6月に開催する「早池峰清掃登山」の日、この時だけ、山頂で会の名前を書いた長い横紙を左右に広げ、クリーンな早池峰をアピールするというごく気軽なものだった。当時山頂には、昔小屋を建替えた時埋没された古釘とかガラスびん、ビール缶などが、広場や岩陰に掘れば掘るだけ出てきていた。それもあと少しで除去が終わり、連動して早ゴミ委員会も消滅、と考えていた矢先の担ぎ下ろしだった。

のんびりやってきた「早池峰にゴミは似合わない実行委員会」だったが、このあと、抜き差しのない山岳トイレ問題の深みへとはまっていったのである。

その頃の山頂トイレは、窓がなく入り口の扉を閉めれば中は真っ暗。暗い、汚い、臭いの3Kそろったトイレだった。キンバエが飛び回り、「普通より大きいんじゃないか」とハヤチネキンバエと名をつけた。菅沼さんたちは、担ぎ下ろしの説明とか山頂トイレ改善のお願いなどのため、度々県の自然保護課へ足を運ぶようになっていった。

5. 〔市民による早池峰山保護の動き〕

早池峰に係わりを持って活動している自然保護団体が以前からいくつかあった。「岩手県勤労者山岳連盟」は、長年早池峰山で清掃登山をおこなってきており、「早池峰フォーラム実行委員会」は、行政と市民が初めて議論を深めた平成11年の「トイレシンポジウム」開催以来、タイムリーなテーマで「早池峰フォーラム」を昨年で10回開催し、世論をリード。「和賀川水系の自然を考える会」は、地域の自然保護に係わりながらも早池峰の保護、特に携帯トイレの普及に関わる。「早池峰の自然を考える会」は、民宿を営みながら早池峰の大規模林道問題に取り組み、エコツアーを開催。「早池峰クマタカ研究会」は、早池峰のクマタカ保護と研究、などである。

地元大迫の「早池峰の里元気倶楽部」は、早池峰の文化的な面にも積極的に取り組んでいるが、以前の名前は「大迫自然の会」といい、オーバーユースで高山植物の盗掘が横行していた頃、その対策として自前でバスを借り切り、シャトルバスを運行したことがあった。バスの前面には大きく「やまねこバス」と書かれていた。1日だけのことだったので知っている人は少ないが、そのイメージと思いが現在の早池峰シャトルバスにつながった。薬師岳を国定公園にという働きかけにも、目覚しい活躍があった。

早池峰の場合、各会個々に活動しているが、ほぼ同じ方向に向っているのである。

6. 〔早池峰での携帯トイレことはじめ〕

平成9年(1997年)に、早ゴミの人たちは石井スポーツ盛岡店に携帯トイレ(総合サービス)の取り扱いをお願いし、使用し始めていた。経緯は知らなかったが、石井で購入し私もその年の秋から登山に使っていた。

花巻山友会では、担ぎ下ろしは一部の人が関係しているにすぎなかったが、携帯トイレをみんなで体験してみようと、会員に1個ずつ配布し使ってみた結果を例会で話し合

った。勤労者山岳連盟の「登山時報」に、携帯トイレが紹介されはじめた頃だった。

翌年の平成 10 年（1998 年）、私が利尻山登山ツアーに参加した時、「利尻山にはトイレがありません。各自工夫しましょう」という呼びかけがあり、「これだ！」と携帯トイレを持参した。膝痛の人がいたためトイレなしで結局 1 2 時間の登山となり、中には我慢しすぎてお腹が痛いという人もいた。私だけ携帯トイレを利用したということで、宿に着いてからほかの人たちに携帯トイレの説明をすることになった。利尻山で携帯トイレが導入されたのはその 2 年後のことであった。

次の年は屋久島に行ったが、こちらにもトイレが非常に不足なところで、また宿に帰ってから皆に携帯トイレの話をした。山用に持ち歩いているポットのお茶を使うと、分量がはっきりし、色がついていて暖かいということで、実感があってわかりやすく、以来多少時間の取れる時は、よくこの方法を用いるようになった。

7. [TSS方式のエコトイレ案が]

担ぎ下ろしも 6 年目となり、「早ゴミ」が何度か県に山頂トイレの改善を求めているところ、平成 10 年（1998 年）12 月、県は突然早池峰山頂トイレを 6 千万円の予算で、「TSS方式」という土壌処理方式のエコトイレに建て替えると地元新聞紙上で発表した。県としては、平成 6 年 9 月に早池峰山の沢水から大腸菌が検出されたとの地元新聞の報道以来検討を重ねてきたようだが、早ゴミにも事前の話はなかった。

「TSS方式」がどんなものかまだわからないうちは、「担ぎ下ろしもこれで終わりか」と思われた。しかし、いろいろな資料を集めよく調べてみると、●早池峰山頂と同じ寒冷条件下での実例がない●小田越コース側頂上直下に長い管が露出し景観に影響●工事に伴い、山頂付近をかなりの面積で表土を剥がさなければならない●新方式のトイレは、登山者が捨てるゴミで故障する恐れが充分ある●工事の規模が小さいからと県は環境アセスメントを予定していないなどが浮き彫りになり、私たちは保護課に直接聞いたり、シンポジウムの開催、公開質問状提出、新聞投書などで、強い反対を展開した。

県は計画案を規定のこととして強行しかねないかに見えたが、結局「TSS方式案」は翌年の平成 11 年（1999 年）8 月に白紙撤回され、すぐ 9 月に、平成 13 年度（2001 年度）まで 2 年間の予定で、早池峰地域の環境保全を“全体的に協議する”場として、「早池峰地域保全対策懇談会」（保全懇）が設けられることになった。

8. [早池峰地域保全対策懇談会と、マナー小委員会]

第 1 回～ 4 回目の保全懇は早池峰への共通認識もなく混沌としていたようだが、委員として出席している岩手県勤労者山岳連盟（3 回目までは村山氏、残り 7 回は菅沼氏）と早池峰フォーラム実行委員会（中嶋氏）など保護団体側の提案で、第 5 回は早池峰山で実地に現地視察がおこなわれた。その後はスムーズに運ぶようになり、山頂トイレの便槽の穴を塞ぐこと、「早池峰マナーガイド」の作成。携帯トイレ専用室の必要性、以

前はどこへ行っても「夢だ」「理想だ」「現実的でない」と笑われた携帯トイレを平成13年（2001年）からは県が中心になって普及推進することまで話し合われた。

その後菅沼氏の意見で、「保全懇」内に地元の町と登山関係者による「マナー検討小委員会」がつくられ、早池峰山においては「従来からの利便性優先のトイレ」ではなく「環境優先のトイレ」が考えられるべきだとの線が打ち出された。

菅沼さんは「今の登山者は何でも簡単に行政に依存し、利便性や快適さを求めすぎる」と登山者の傾向を批判し、私たちもまた「登山は多少なりとも自然破壊をとまなうのだから、そういう自覚を持って山とつきあっていかなければ」と考えていた。

私は手作りで、「汚さずに 山の自然と親しもう / 究極の山のゴミ、それは排泄」というピンク色の紙のチラシを作り、山や山に関連した集会の会場で、どこでも携帯トイレの普及活動をおこなっていた。地元紙の夕刊に「登山に便利 携帯トイレ」と紹介記事が載ったこともあった。

9. [シャトルバス運行で携帯トイレの普及活動が活発化]

私たちは、登山シーズン中の道路の混雑解消と高山植物の盗掘防止の根本的な対策として、シャトルバスの運行を数年がかりで県に要望していたが、「平成10年（1998年）に県の予算も付いて運行が開始されることになった。

さっそく小田越登山口では、山開きの登山客を対象に、携帯トイレの普及活動を早池峰フォーラム実行委員会と和賀川水系の自然を考える会が始めた。フォーラム実行委員会は、「早池峰入山七箇条」という素敵なパンフレットも配っていた。もちろん早池峰山のことをたずねられればアドバイスもする。「グリーンボランティア」の活動の原型は、この頃にはすっかりできあがっていた。

県の自然保護課も、ついこの間まで携帯トイレの話をする、「皆さんのように進んでいる方がいいでしょうが、一般の人にはとてもとても」などといっていたのが、いつのまにか体験もされ、携帯トイレはよく理解されていた。

この頃の何年だったかに、6月第2週の日曜日、山開きの時、(株)総合サービスから県に携帯トイレが1000個提供され、早池峰で1回だけ登山者に無料で配布したことがあった。もらえるものなら私にもというかのように、「登山口でもらわなかった」と、頂上で残りを持っている保護課の人に申し出ているおばあちゃんがいたのはほほえましかった。

山開きは早池峰観光協会が主催者だが、シャトルバスが運行されるようになってから、山頂でお祓いや神楽奉納の神事のあと、千人におよぶ登山者の前で菅沼氏がユーモアたっぷりに「携帯トイレを使いましょう！」と呼びかけ、使い方のデモンストレーションをおこなうようになった。

観光協会は、なぜか打ち合わせを無視してデモの前に終わろうとしかけたり、デモの最中に絵馬を配り出して話どころではなくしたりし、露骨にいやなそぶりを見せる。昨

年もそうで、菅沼氏も「何故あんなことをやるのか」と、憤懣やるかたない表情でいていた。携帯トイレなどというもののお陰で、以前より観光客が減少しているとか（他にも理由はあろうに）、くすぶっているのかもしれない。

10. [予想外のうれしい結末]

早池峰の環境保全を“全体的に協議する”が、ほとんどトイレ問題に費やされ、結局県が計画したTSS方式に賛同する委員が大多数という状態のまま9回目の審議が終わり、平成13年（2001年）9月に最終期限を迎えようとしていた。

「保全懇」の様子に私たちもかなり諦めムードになりかけていたが、8月9日になり、県は岩手県勤労者山岳連盟と早池峰フォーラム実行委員会の代表を呼び、最終懇談会を前にしての事前協議をおこなった。

県側の話は、「バイオトイレは中止しますから」、「山頂避難小屋の耐用年数24年間で平成22年末で満了となるまでの今後10年間、皆さんが担ぎ下ろしをおこなう、という担保を約束していただけますか」との提案である。

担ぎ下ろしを中心的にやってきた2団体が、この案を了承したのはいうまでもないことで、最後は「保全懇」の最終懇談会で、県への提言として正式に承認されたのだった。

この時の地元の新聞（2001.12.20 岩手日報）には、「環境優先型の英断」という見出しで、「このような結論が出た背景には、すでにボランティアと行政が連携して普及活動をおこなってきた携帯トイレの急速な浸透があった。この年の夏、県が実施した登山者アンケートでも78%が『今後使用してもいい』と答えていた」と報道していた。

この記事の中で早ゴミの菅沼さんは、インタビューに答えて「担ぎ下ろしは、携帯トイレが完全に定着するまでのサポート」と述べ、記事は「『早池峰を携帯トイレのみ使用の山に』という夢は、現実になるかもしれない」と結んでいた。

このような結果が出たことに保護団体側は皆感激した。現在でも語り草といってもよいくらいである。きっと自然保護課は相当勉強したり調べたりしたにちがいない。ここから早池峰の保護活動は、官民協働へと展開していくのである。

翌年の平成14年（2002年）、今後の早池峰保全対策の体制として「早池峰保全対策事業推進協議会」（略称協議会）と、シャトルバスの運営についてバス会社も加わり「早池峰地域自動車利用適正化部会」が設けられた。

11. [担ぎ下ろしが県の方針になって…いわてグリーンボランティア誕生]

「担ぎ下ろしと携帯トイレの普及」がはっきり「県の方針」という位置づけになり、行政と私たちとの関係は、行政がやれてボランティアには難しいところ、ボランティアがやれて行政には難しいところを相補いあうパートナーシップの関係になった。今から思えば、行政と民間との協働のハシリだったといえるかもしれない。

平成14年（2002年）には、県が窓口となって、早池峰にもグリーンボランティア制

度が設けられることになった。岩手県では、県内の他の国立公園、国定公園、県立自然公園に以前から置かれているもので、保護管理員（早池峰国定公園では 11 人）のアシスタント的役割をになう。活動内容が文書化され、活動の指針となっている。

早池峰においては 250 名程度が登録し、実動は半数弱である。研修会の連絡や保険をかける際にも必要だということで、担ぎ下ろしをやってきた人たちも全員登録をおこなった。県は、グループ化することでボランティア間の連携が深まり、何人かでやる軽作業ができるようになったり、ボランティアガイドの育成を目指すとうたっている。

グリーンボランティアは、残雪のある 5 月末（毎年第 1 回目の担ぎ下ろしがこの時期）から 10 月末くらいまでが活動期間で、県は、登山者の多い 6 月第 2 日曜日の早池峰山山開きから、8 月第 1 週の日曜日までの土日祭日を「グリーンクリーンキャンペーン」実施期間（シャトルバス運行期間）と決め、力を入れている。

具体的な活動としては、次のようなものがある。

◆利用者のマナー向上対策

- 1) 「早池峰マナーガイド」、「携帯トイレを使いましょう（チラシ）」配布
- 2) シャトルバス到着時、登山前にトイレの使用をすすめる
- 3) 登山口、山頂での携帯トイレの説明・販売（現在、携帯トイレ＋密閉袋で 370 円）
- 4) 山頂トイレ担ぎ下ろし

◆高山植物の踏み付け防止と盗掘防止、ロープの外に出ている人への注意

◆移入種駆除作業の協力

◆シャトルバス最終時刻の注意、ストック使用の注意など。

県は、シャトルバスの運賃支給（しばらくは自費、その後片道負担の時期もあった）と障害保険の保険料負担（途中から）、毎年のスキルアップ講習開催等でグリーンボランティアを支援している。講習は早池峰の自然観察からより高度なものまである。

グリーンボランティアの中には、私が「“早池峰命～” みたいだ」と思うほど、まじめに回数多く出動し、仲間もできて、楽しそうに自主的な研修もしている人が何人もおり、グリーンボランティアは年々レベルアップしているといえる。

12. 【官民手をたずさえての活動】

平成 14 年（2002 年）から県の自然保護課を中心とした県の担当職員が担ぎ下ろしに加わるようになった。長い柄のひしゃくを使っての汲み取りから一緒である。山を歩きながら、早池峰の保護に関して直接意見や質問がしやすい関係にもなった。

平成 10 年に土壌処理方式案が出た時の県の姿には古いものが感じられたが、時代と共に役所のやり方も多少変わってきたのか、その後は関係者による協議の場がよく持たれ、意見が反映されるようになった。

私がよその県に行くと、しばしば「岩手はどのようにして官民の連携がうまくいって

いるのか」と聞かれる。利尻島ではその話で「感動した」という人もいた。質問には「自然保護課を中心に担当の人たちが熱心でいい人たちだから」と答えたい。自然保護関係者の提案を県が自ら考えていたみたいに行っているなあと思うことがあるが、意見を汲み上げてくれている結果である。「官民協調してのパートナーシップ」を、互いに責任を持って果たそうとしていることが一種の契約のようになっているのかもしれない。

一般登山者の方たちに携帯トイレの説明をする時、「県の方針で普及を進めています」といえるのは、非常に気持が楽だ。歴代の担当者の方の中には、初代の及川さんという方は1週間に2度・3度もの割合で「ボランティア通信」を発行し、ボランティアの面々も感嘆していた。部署が変わっても毎回担ぎ下ろしに来てくださる方もいる。

「早池峰にゴミは似合わない実行委員会」の存在も、大きかった。平成19年(2007年)に、「早ゴミ」は担ぎ下ろしによって社会部門で「岩手日報文化賞」という大きな賞を受賞し、これまで仲良くやってきた官民共ども皆で喜びを分かちあったのだった。

重複するが早池峰の環境保護のために提案し、実施されたことは、

- 1) 平成13年6月に山頂トイレの底の穴をふさぎ、浸透式をやめ完全な汲み取り式に改善。その後も不完全な点が見つかり数回補修。水分が全部残っているため、年間の汲み取り回数をはじめは7回、のちに大体5回に落ち着いている。
- 2) 山頂トイレの個室三つのうち二つを携帯トイレ専用ブースに変更、折りたたみ式便座を設置。最初の2年間は小型テントで対応した時期もあった。
- 3) 「早池峰マナーガイド」の作成、配布。
- 4) 山頂避難小屋の前に、携帯トイレの自動販売ボックス(“機”ではない)を設置。「早ゴミ」が担ぎ上げた。
- 5) 県内のスポーツ用品店に携帯トイレの取り扱いを要請
- 6) 使用済み携帯トイレは基本的に持ち帰りだが、遠方からの登山者のためシャトルバス乗車地に回収ボックスを設置(帰りにシャトルバス乗車地へ寄れるとは限らず、登山口に置いてほしいという声が多い)。
- 7) 全国のツアー会社、近県の山岳団体等に「車両の交通規制と携帯トイレ使用のお願い」を周知徹底。などがある。

13. 【担ぎ下しは今…】

「早ゴミ」の提案で、新しく県が5リッターと10リッター入りのポリ容器を用意してくれた。ボランティアの中には10リッターを3個も背負う猛者もいる。

「楽しみながら」をモットーに、担ぎ下ろしの日といえば、「早ゴミ」は着ていくTシャツは黄色、山ではカレーうどんを作り、黄色にこだわる。10周年記念の時はウンチ型のクリームを上にしたケーキを山頂に担ぎ上げ、みんなで食べた。その注文には、ケーキ屋さんも目を白黒させたようだ。そのほかにも面白いことがいろいろある。

毎回の協力者は、山の仲間、県や市町村の関係者、大学生、一般の登山者にも呼びか

けて、2003年頃からは1回に50名は集まるようになり現在が続いている。岩手県勤労者山岳連盟では県連行事としており、各会が参加する。

参加する人たちは、美しい高山植物が迎えてくれ、久しぶりの山仲間との共同作業なので、イベントのように楽しく参加している。

作業は、常連のボランティアの人たちが次第にベテランとなり、作業開始ともなれば、汲み取り、中身の入ったタンクを運ぶ人、ビニール袋での梱包などに分かれて、さっと定位置に人がつく。作業はこれまでの経験によるノウハウがあり、手早い。ずっと中心的にやってきた「早ゴミ」の人たちも、皆がしっかりやってくれるので、時には見守り役をやっていることもある。

登山口や山頂トイレの前でおこなう携帯トイレの使い方の説明はどのボランティアも上手になった。携帯トイレ専用室で用を足してくれた人には、「ご協力ありがとうございます」とお礼の一言をいっている。

担ぎ下ろしの年間スケジュールは2月頃には発表され、見学や協力のために遠方から参加する人たちも増えている。山頂に居合わせた登山者には、汲み取りをしている私たちがインパクトを与え、理解を促しているように思う。

担ぎ下ろしによる処理量

2002年度 470 kg (この年まで浸透式) 2003年度 1185 kg (この年から浸透式の穴を塞いだ汲み取り式) 2004年度 1384 kg 2005年度 863 kg 2006年度 538 kg 2007年度 636 kg 2008年度 546 kg ※その年の天候による登山者の増減もあるが、減少傾向に向かっている。弁当のカラなどでゴミため化していたトイレの中にゴミがなくなるのには10年間、平成14年(2002年)頃までかかった。

因みに2009年度の担ぎ下ろし予定は、

★5/24(日)、6/21(日)、7/12(日)、8/23(日)、10/4(日)

8/23は小学生の親子参加による「クリーンキッズ」を同時開催

★当日の行動予定時間 7:30 川原の坊出発 10:30 山頂着 11:30 昼食後作業開始
12:10~13:00 小田越に下山 15:00 川原の坊に移動し、川原の坊の既存トイレに移し変え(ここにはバキュームカーが入るため) 16:00 解散

問い合わせ先 早池峰にゴミは似合わない実行委員会事務局

内匠 利光(たくみ としみつ)

花巻市上諏訪422 tel/fax0198-24-5128

Email tsukihosihosih@rapid.ocn.ne.jp

《早池峰のこれから》

1. [山頂避難小屋あり方検討部会が設置される]

改築の時期まであと3年となった2008年(平成20年)6月、「協議会」の中に「早池峰山山頂避難小屋あり方検討部会」が発足し、次世代の早池峰山にふさわしい避難小

屋トイレのあり方を見出すことになった。委員に限定せず、自然保護関係団体等からの意見聴取、登山者への聞き取り調査、パブリックコメントなども実施されつつある。

2. 「現在までの「あり方検討部会」の検討結果」

次のようなことが検討された。

1) 避難小屋の要・不要

山頂避難小屋は、冬期間の厳しい気象条件を踏まえると遭難対策上からも絶対必要である。

2) 次の避難小屋・トイレの場所について

規制が厳しい地域であること、植生への影響、冬期間に置かれる状況や各登山道からの利便性からも、現在地しか考えられない。

3) 携帯トイレ普及啓発の継続について

利用者アンケートなどから見て携帯トイレだけにするのはまだ難しく、引き続き普及啓発に取り組むべきである。普通のトイレを一時的に閉鎖するノートイレデーの実施、学校登山での携帯トイレの事前学習推進。

4) 携帯トイレ普及推進のための条件整備について

- ・小田越え登山口のトイレの充実、仮設トイレの設置も含めて検討する。
- ・小田越、川原の坊両登山口に使用済み携帯トイレの回収ボックスを設置する方向で検討する。
- ・小田越コース登山道の途中への携帯トイレブースについても検討する。

5) 早池峰に土壌処理方式を建設する場合の問題点を整理する、であった。

実は私も昨年11月、検討結果にあるような①小田越登山口のトイレ改善（古くて数が少ない）②小田越えコースの中間に携帯トイレブース設置（これまで反対が多かった）③使用済み携帯トイレの置き場所を登山口に（現在はシャトルバスの駐車場）④ノートイレデーの実施（複数回で）、という内容の意見書を県自然保護課に提出している。昨年は利尻山に行く機会があったので、利尻山のトイレの情報も送った。

「トイレで他人に世話をかけない山登りをしよう！」早池峰ではずっとこのように訴えてきた。しかし、「携帯トイレを使わなければならないのなら早池峰山には登らない」という声もある。小田越コースだと往復5～6時間、実は女性でもトイレを使わずに済む場合が結構ある早池峰山登山である。一層の理解をお願いするとともに、これらの声に歩み寄る大らかさも私たちには必要だと思っている。

今年、本当に「ノートイレデー」が実施され、よい結果が出れば、夢が現実に一歩近づくことになるかもしれない。早池峰山に従来型トイレのなくなる日がくることを願いつつ、これからも皆で力を合わせ楽しく進んでいきたい。

※日本勤労者山岳連盟編「どうする山のトイレ・ゴミ」 2002年大月書店発行もご参照ください。

(2009. 2. 15)

「2008年早池峰山担ぎ下ろし」から



早池峰山頂でのし尿処理風景



大丈夫やれました！



かぼちゃパンをご馳走になりながら



私たちが携帯トイレ、使ってみるわ



私が担ぎ下ろしました～♪



川原の坊のトイレに移し替えて完了